

天皇の 制度

日本共産党は どう考えるか

志位委員長が語る



日本共産党は、現在の天皇の制度をどうとらえ、どう対応するのか——。志位和夫委員長のインタビューが、6月4日付「しんぶん赤旗」に掲載されました。

天皇の代替わりにもない新元号の発表や儀式などが続き、即位にあたっては衆参両院で「賀詞」決議が採択されました。これらに対する日本共産党の対応がメディアでも話題になり「もっとよく知りたい」「真意はどこにあるのか」という声が寄せられています。

- 志位委員長は、日本国憲法と日本共産党綱領をふまえ
- なぜ綱領から「君主制の廃止」という課題を削除したか
 - 天皇の制度の現在と将来にどのような態度をとるか
 - 国会開会式、「代替わり」儀式、「賀詞」への対応は
 - 元号にどう対応するか
 - 女性・女系天皇は
- などについて、まとめて語っています。

安倍首相は天皇とその制度への過度な礼賛、祝意を強制するキャンペーンを行い、「令和の時代にふさわしい憲法を」などと、天皇の制度の政治利用を強めています。その問題も厳しく指摘しています。

インタビュー全文はHPで→



痛みにより、声をとどける。

ぜひお読みください

参議院議員(東京選挙区選出)

吉良よし子

プロフィール●1982年高知県生まれ、高知県追手前高校、早稲田大学第一文学部卒。2013年東京選挙区から初当選。現在、文教科学委員、決算委員、憲法審査会委員。日本共産党中央委員、書記局員。家族は夫と息子。趣味は読書、映画鑑賞、観劇など。

東京民報 ご連絡・ご要望は 03-5972-1621、FAX 03-5972-1590
2019年6月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。
発行/東京民報社(港区芝1-4-9 平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可

日本共産党